

成果と課題

成果	
児童	教師
<ul style="list-style-type: none"> ○英語に対する興味・関心の高まりがみられ、英語を話すことを楽しんでいる。 ○授業でやりとりを多数経験したことで、既習表現を使って、相手の反応を見ながら質問したり答えたりすることのできる児童が増えた。 ○音を聞いて、その文字や単語が分かるようになってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○中学校と連携して CAN-DO リストを作成し、年間学習到達目標を明らかにしたことで、指導方法が明確となり、適切な支援を行うことにつながった。 ○お互いに授業を見合ったり、クラスルームイングリッシュの研修を行ったりしたことで、教員一人一人の指導力の向上につながった。 ○授業の流れを見直し、年間をとおして実践したことで、授業スタイルができつつある。
<ul style="list-style-type: none"> ○15分の学習を週3回行ったことで、前回の学習内容をすぐに思い出し、集中して取り組むことができた。(高学年) ○音を聞いてその単語の意味が分かったり、それを写し書きしたりすることができるようになってきた。(高学年) 	<ul style="list-style-type: none"> ○教材を複数準備することで、同時に学習を進めることができた。 ○15分という短い時間の中で、テンポよく授業を展開する力を身に付けたことで、一単位時間の授業でも活用することができた。
課題	
児童	教師
<ul style="list-style-type: none"> △英語の学習を楽しんでいても、間違えたら恥ずかしいという気持ちが先に立ち、“Let me try”と言えない児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> △新学習指導要領の内容を踏まえて、評価や、これまでの荒川区英語教育の見直しをしていく必要がある。 △ある程度の授業スタイルを構築することができたが、今後も見直しが必要である。 △児童の発展的な学習に対応する準備が不足していることもあった。

おわりに

本校は、平成27年度から、文部科学省外国語教育強化地域拠点事業として、荒川区立第七中学校、東京都立飛鳥高等学校とともに指定を受け、研究をすすめてまいりました。また、平成29年度は、新学習指導要領先行実施に向け、高学年年間70時間の授業を行うとともに、「荒川区英語教育の実践を踏まえた、小学校英語科授業スタイルの構築」という研究主題を設定し、CAN-DO リストの作成、年間指導計画の作成・見直し、授業の改善、教材や言語環境の整備に取り組んできました。まだまだ研究途上ではありますが、これまでの研究経過をご高覧いただき、ご指導ご助言をいただければ幸いです。

最後に、これまでご指導をいただきました聖学院大学准教授 東 仁美先生を始めとする講師の先生方、教育委員会の皆様方に心より感謝とお礼を申し上げます。

副校長 大野 良子